

観光予算と観光道路整備について

川添議員

(1) 観光行政について

①新幹線開通を視野に入れ、観光客増加が望まれる。観光は10年先を見て手を打たなければならぬが、観光コンベンション協会の「観光客誘致事業の補助金」が2年で136万円減額されている。観光客を本気で増やすためにはこれ以上の補助金カットで民間に負担を転嫁するのはやめるべきである。

(2) 商工会議所青年部では30周年記念事業として「理念ある行政と市民一体のまちづくり」へ向けて「条例の提案もできる窓口の設置」、「女性に優しく好かれるまちづくり条例」、「女性が降りたくなるような駅」が提言されている。真剣に取り組むべきと考えるが市長の考えを問う。

②東大村の「つつじ園」は大村市の観光スポットの一つであり、経済波及効果も大きい。観光客の

増加は喜ばしいことであるが、道路が狭く、観光客だけでなく地域住民の方にも不便をかけている。早急な道路拡幅(側溝整備)を望み、当局の考えを尋ねる。

市長

(2)商工会議所青年部の皆さんから大変貴重なご提言をいただき感謝している。まちづくりの主要役は市民であると考えている。市民と行政が一体となつて連携し、協働して地域の問題点や将来像を共有し、取り組んでいくことは極めて重要である。いただいた提言は行政にはない発想で、時宜にかなうものである。活かしていきたい。

市長 (1)①各種補助金については財政が非常に逼迫している中である程度痛みを分かち合つていかなければならない。その中で、観光コンベンション協会は、観光の推進はもとよりコンベンション、集客、誘致等、各方面で活躍いただいております。市としても極力支援をしていきたいと考えている。

苦しい中であるがトータル補助金は増やしており、有効に活用していただき観光の推進をお願いしたい。観光振興は市の重点施策の一つであり、今後も引き続き力を入れていきたい。

都市整備部長

(1)②一日に約5,000人の見物客が訪れた日があり、道路が渋滞したと聞いている。



つつじ園前の市道

中学校給食の実施は

市長が政治的決断をすべきだ

里脇議員

(1)中学校給食の実施について

中学校給食について3月議会でも多くの議員が質問されたが、小学校給食調理場の建設を進めながら、やるかやらないか検討していくということ、実施について明確な方向性が示されていない。愛情弁当の必要性や学校の時間割の問題を言われる方もいるが、世の中の流れや生活環境、他の自治体の状況からみても中学校給食は実施すべきだ。

市政の大きな課題であり、市長の政治的決断を求めたい。

(2)給食費未納問題について

本市には給食費未納の対策をとるための制度がなく、未納の問題は学校任せで議会や給食会でも問題としてテーブルに上がってこない。「給食費徴収規則」を制定し、徴収者を市長にして、税や他の利用料などと同じように徴収を一本化し、未納者へは法的措置を行えるよう早急に対策を講じるべきだ。

教育長

(1)市民の中学校給食の必要性に対する機運が高まっていることを感じている。このような中、教育委員会としても改めて協議し、時期は明確にできないが、中学校給食を導入するという方向で検討していきたい。

市長 (1)平成14年の中学校給食懇話会において中学校給食の導入が望ましいが、日課の問題や財政状況を考慮しながら検討す

る必要があるという結論で今日まできている。これまで様々な議論や意見交換を重ねてきたが、私も教育長と同様の考えである。まずは現在の給食調理場の老朽化や衛生面の問題などがある小学校給食について、平成24年度に新しい給食調理場をスタートさせるといふことを第一義とし、引き続き、財政状況をクリアしながら中学校給食に取り

教育次長

(2)これまで教育委員会だけで検討してきたが、昨年度から、収納課を入れた給食滞納対策検討委員会を立ち上げ、効果的な対策について検討を進めている。その中で、例えば徴収規則の制定や請求者を学校長、教育長、市長のいずれにするかなど、法的問題も含め詰めているところである。結論まで少し時間がかかるが、早急にまともな対策を打ち出したい。

(その他の質問事項)

障害者福祉の「日中一時支援事業」の改善について

